

令和6年 夏季研修Ⅰ（教育相談）のまとめ

1 日 時 7月23日(火) 13:00～16:00 オンライン研修(各学校で)
172名の参加申込み

2 研修内容

(1) テーマ「若い先生のための教育相談講座」

(2) 演 題

【叱らないけど譲らない支援 ～発達障がいや不登校の子どもを対象に～】

明日から教育実践に活かせる「提案・交渉型アプローチ」の理論を深めます

講師：和歌山大学 教育学部 名誉教授 武田 鉄郎 先生

◆提案・交渉型アプローチの定義と講演の目的

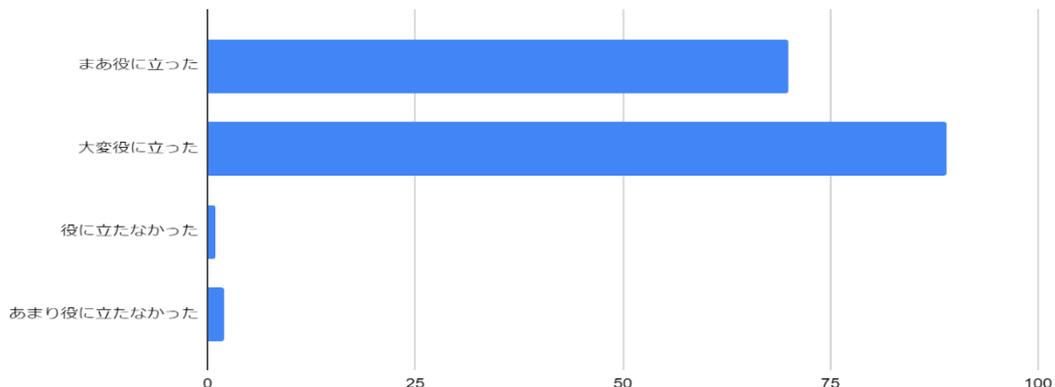
提案・交渉型アプローチの定義：

子どもが「できない」「わからない」「認めてほしいけど・・・」など立ち往生したときに、子どもの主体性や自主性を重んじ、同時に、その子どもに寄り添う状態で子どもが「選択」できる状態を設定し、指導・支援する方法である。

〈講演の目的〉

発達障害のある子どもの中には、トラウマ症状を呈していて不適応状態になり、生きにくさや行き詰まり感を持つ者は少なからずいる。本来ならば「できる」こともできなくなってしまうことがある。このような状態にある子どもの効果的な指導・支援の在り方である「提案・交渉型アプローチ」を紹介し、発達障害のある子どもの自尊感情を育て可能性を広げる対応・支援の方法を考えていくことを目的とする。

3 今回の「夏季研修Ⅰ（教育相談）」の研修内容は、役に立ちましたか。



4 「役に立った」「まあ役に立った」を選択された方への質問です。

どのような内容が役に立ちましたか。

- 「教師の後出し」「言語化」など、2学期からすぐに取り組みそうなことを学ぶことができました。
- 児童に選択させ、約束することの大切さ、信頼関係の大切さ、教師が主導権をもつことの大切さに気づくことができました。
- 事例がたくさんあったため、自分の学級の児童の様子と照らし合わせながら考えることができました。
- ADHDの子の動画を見て、身近にもこのような子がいるのですが、どのように対応したらいいのかわからないことがほとんどでした。でも、自分なりに諦めずその子に寄り添って声をかけ続けたいと思いました。
- 叱らず、子どもたちを受け止めていくために、どういった対応をしていくべきか、事例をもとに具体的な提示をしていただけたことで、自分のクラス子ども達を想像しながら考えることができました。
- 具体的な子どもの様子やその対応方法の紹介が役に立った。具体例があると、自分が担任している児童に当てはまることが多くあり、参考になりました。
- 目の前の子どもの状況を見ると、「叱らなければ」と強めに指導してしまうことがあるが、全てがそうではなく、大事なことを指導しながら、共感して優しく指導することも大切だと分かりました。
- 実例をもとに、具体的な声のかけ方などを示していただけたので、自分のクラスの子に照らし合わせてリアルにイメージできました。
- 具体的なアプローチの方法がわかった。提案・交渉することで、子供たち自身が考え、判断して成長していくことが大切であることを再認識できました。
- 後出しの対応が大事。メタ認知を育てる。『どうしてできないの?』ではなく、『何ができる?』の問い方について。子どもへの適切な聞き方と、正しくアセスメントし対応することの大切さを学びました。
- これまでに子供の話をよく聞いて寄り添うようには寄り添うようにはしてきましたが、どのようなときに「譲らない」とすべきかがわからないままでした。個に応じて変わりはしますが、折り合いをつけられるように提案をしていくこと、様々な選択肢を教員側が持つておくことなどを学ばせていただきました。
- 自分で決めさせることは大切だけれど、教師側の思いも譲らない、お互い折り合いをつけながらルール作りをしていきたいと思いました。
- 発達障害や不登校の児童生徒の特性や対応の仕方について、具体的な話が分かりやすかったです。

- ほめ方によって、自尊感情が育つことは理解していましたが、基本的自尊感情が育つような褒め方を意識したいと思いました。
- 普段児童と関わる時に行なっていることが、間違いではないかと検証できました。
- 発達障害の子に対する声かけが分かりました。2学期以降に役立てていきたいです。
- これまでも「子どもに寄り添う」ことを大切にしてきたが、武田先生のお話を聞き、「叱らないけど、譲らない支援」について、大変共感する部分がありました。
- 提案交渉型の接し方で、自己決定ができるようにしていくことや、気持ちを言語化することの大切さがわかりました。

5 「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」を選択された方への質問です。どのような内容に「不満」がありましたか。

- アカデミックな内容が多く実践に活かせるものが少なかったです。
- 提案型の指導をすでに実践していたため、さらに自分の実践に補充されたところがあるとよかった。
- 音声画像の乱れで内容が分からない箇所が多くあった

6. 今回の研修で「学ばれたこと」「今後の学級経営に活かしたいこと」等がありましたらお書きください。

- 支援が必要な子の安心安全と、周りの子の安心安全を両方確保することです。そのためしっかりとその子と話をし、約束を決めたいと思います。
- 私の学級にも集団行動が苦手な、教室を出てしまう子がいます。その原因がいくつもあることがわかりました。今までの自分にはなかった子どもの考えや、考えられる心理的状况について知ることができました。
- 私のクラスにもトラウマのようなものを抱えた発達障がいをもつ生徒がいます。ついさっきまで楽しそうに活動していたのに、急に何かがフラッシュバックしたかのように怒り出したりすることがあります。そんな時こんな声の掛け方で大丈夫なのかな？といつも不安でしたが、寄り添って声をかけ続けられるようにがんばります。
- 気持ちに余白を広げること、守備範囲を広げることの大切さ、提案・交渉型アプローチをする際のポイントに沿って指導・支援にあたっていきたいです。
- 対応の仕方に難しさを感じている児童に着いて、声の掛け方や、対応の仕方を変えていくことで、児童も自分で選択して活動に参加することができると考えました。

- 普段、～しなさい、～した方がいいなどと一方的に指導してしまいがちである。そのため、子供たちは受け身になり、嫌々やらされている感がある。今回学んだ、交渉する、選択させるということで、教師側の余裕もできるような気がした。何ならできそうか子供達と交渉しながら、合理的配慮をしていきたいです。
- 今後は自分の学級の児童みんなを自尊感情の4つのタイプに分けて関わり方を工夫していきたいです。
- できないと言う児童が多く、提案・交渉型アプローチを取り入れ、少しでもできる方向付けをしていきたいと思います。
- やらない子、やれない子、出来ない子に対するアプローチ「どうしたら～ができるかな？」と寄り添って出来ることを一緒に考えていく姿勢を身に付けていきたいです。
- 自分の学級には、不登校の子供がいます。本人は、「学校にできるだけ行きたい」という思いを持っていますが、なかなか行動に移せないのも現状です。2学期にある運動会などの行事に向けて、直接話しながら、本人の気になっているところと一緒に探しながら一番いい方法を考えていきたいと思います。
- 子どもたちの何とかしたいという思いを大切に、共感的に話を聞いてどこに困り感があるのかを一緒に考えて子ども自身が自己選択できるようにしたいと思いました。あるもの探し、子ども理解の守備範囲を広げて子どもと接していきたい。

7 令和7年度の「夏季研修」で取り上げてもらいたい研修内容についてご回答ください。

